

今年度の小地域懇談会はこんな感じ

テーマ『気をつけよう。日常生活に潜む思い込み』

7月から12月にかけて11地区の会場で小地域懇談会を開催しました。準備、運営にあたって各地区の区長・町内会長、協力員の皆様には大変お世話になりました。

今年度は、「無意識の思い込みが、誰かに嫌な思いをさせているかもしれないことを自覚して、言葉にする前にちよつと立ち止まって考えてみましょう。」と呼び掛ける目的で、二部構成で開催しました。

始めは人権啓発DVD【人権のヒント《地域編》「思い込み」から「思いやり」へ】の視聴です。その内容は、街の喫茶店「カフェ・ヒューマンライツ」のママのところに、さまざまな思いをいだいた人々が集まってくる。その交流のなかから、「人権のヒント」を考え、それぞれの違いを思いやる心の大切さを理解する。というものです。登場人物のセリフの一部を紹介します。

「育児は母親の仕事だろ。こっちは外で働いて疲れているんだ。」

「何にされますか？ここはコーヒーがとってもおいしいお店なんだけど。」

「東北生まれの人は我慢強いよねえ。おしんぐみたいだねえ。」

など、第三者の立場で見ていると、一方的に自分の思いを伝える言葉から、相手の気持ちに想像できません。

でも、これが当事者となるとどうでしょうか。言ってしまうから気づいたり、気づかないまま相手の気持ちを無視してしまうこともありがちなことです。参加者からいただいた感想を一部ご紹介します。

○人がしているのを見ると、おかしいなと気付いても、自分のことは気付いていないのかもしれないな、と思った。時々振り返る時間を持つよ

う心掛けたいと思う。

○特に印象に残ったのは、古い価値観のまましていると、知らないうちに誰かを傷つけてしまう可能性があるの、日常の言動や判断には十分気をつける事の大切さを感じた。

○立場が変われば、固定観念にとらわれて人権意識が薄れがちになるので、常に他者の立場や、自身の思い込みに気を配ることが重要だと思った。

○「思い込み」が思い込みだと気づかせてくれる人がいて、その人の話を受けとめることができる関係性が、まず第と感じた。顔を合わせてあいさつをしたり、出会ってちよつと話す人がいることはとても大切で、そこから気づきをどう生かし、「思いやり」へ近づいていけるかを考えさせられる内容だった。

○人権研修をこまめに受けて、人権意識を高めることが必要。

DVDを監修されたJFEスチール(株)人権啓発室の竹内良室長は、次のように呼びかけておられます。

私たちは、一人ひとりが異なる個を生きています。

人種、信条、性別、社会的身分、門地、障がいのあるなし・・・と、人それぞれ違っています。ですから、相手の立場に立つことはできません。ただ、立てないと自覚することはできません。

それが想像力であり、思いを馳せる、思いやりということだと思っております。

地域の何気ない暮らしの中から、「思いやり」を考えてみませんか。

2010年に制作された内容で、少し現代社会にそぐわないと思われる部分もありましたが、視聴者の心に主題や作者の意図がしっかりと伝わっていました。



雲山南団地集会所の様子

各地区の参加状況

地区	長砂	古郡家	美和	西大路	雲山南	越路	雲山中央	中大路	東大路	東雲山	久未
実施日	7月12日	8月24日	8月29日	9月7日	10月12日	10月25日	11月9日	11月9日	11月14日	11月30日	12月14日
参加人数	11名	16名	13名	10名	22名	11名	15名	9名	9名	9名	11名

